

平成 28 年度事務事業評価表(一般事業・継続)

No. 376

事務事業名	おおむらじげたまグランプリ事業
-------	-----------------

作成日	平成 28 年 9 月 30 日		
部局名	商工観光部		
課名	商工振興課		
課長名	高取 和也	内線	240
担当者名	池田 有希	内線	249

基本目標		活力に満ちた産業のまち
政策	040202	活力ある商工業の振興
施策		商工業経営基盤の強化と創業支援
関連施策		

会計	一般会計	
款	7	商工費
項	1	商工費
目	2	商工業振興費
事業コード	040100	じげたまグランプリ事業

事業類型	5	負担金・補助金事業
個別計画		
重点事業		

【PLAN(計画)】

対象(者) 誰(何)に対して事業を行うか	大村商工会議所及び特産品開発に関心のある市民、事業者		
意図 対象をどのような状態にしたいか	市民に地元特産品に関心を持ってもらうとともに、地元業者の新商品開発意欲を増進させ、大村市の新しい特産品を生み出し、地域振興及び経済発展につなげる。		
事業概要 意図を達成するために実施することは何か	おおむらじげたまグランプリ事業を実施する大村商工会議所に対して事業費の補助を行う。 ※おおむらじげたまグランプリ事業(2年に1度開催) 市内業者から新商品、試作品を募集し、各賞を決定する。 また受賞商品を始めとするふるさと産品について、販売会やPR活動を展開し、販売促進を図る。 (実施主体:大村商工会議所)		
事業期間	平成 14 年度 ~ 平成 年度	実施方法	補助
根拠法令、要綱等			
国・県補助事業に係る本市単独施策			

【DO(実施)】

指標名(上段:名称/下段:算定式等)		単位	25年度	26年度	27年度	28年度	備考
活動指標	① 事業者部門応募数	計画値	15	-	18	-	奇数年度にグランプリ実施。 偶数年度は販売促進事業
		実績値	17		18		
		達成度	113.3%		100.0%		
活動指標	② 物産展参加数 県産品フェアや市内イベント、大型店舗等での物産展参加数	計画値	-	3	-	3	H24年度新規設定 偶数年度のみ設定
		実績値		3			
		達成度		100.0%			
成果指標	① 商品化数	計画値	15	-	18	-	奇数年度のみ設定
		実績値	17		18		
		達成度	113.3%		100.0%		
成果指標	② イベント(じげたまグランプリ審査会等)開催に伴う集客数 集客数で判断する市民の関心度	計画値	150	1,200	100	1,200	奇数年度はグランプリの審査員数。 偶数年度は物産展集客数
		実績値	117	-	66		
		達成度	78.0%		66.0%		

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
① 事業費(千円)	600	600	600	600	900	900	600	0
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他	300	300	300	300	450	450	300	
一般財源	300	300	300	300	450	450	300	
② 人件費(千円)	742	780	826	840	事業内容	事業内容	事業内容	備考
職員人数(人)	0.08	0.10	0.11	0.11	おおむらじげたまグランプリ事業費の1/2以内で予算で定める額を補助する。	販売促進に要する経費の1/2以内で予算の定める額を補助する。	おおむらじげたまグランプリ事業費の1/2以内で予算で定める額を補助する。	
時間外勤務(時間)	7	12	25	20				
嘱託等人数(人)	0.05							
フルコスト(①+②千円)	1,342	1,380	1,426	1,440				

※財源内訳中の「その他」には、保険料・寄付金・基金・利用料等の収入を記入しています。

【CHECK(評価)】

事業の進捗状況 昨年度の評価から、どのような取組をしましたか(昨年度の【ACTION】の改善・改革の進捗等)	平成27年度は、市内13業者から18商品が出品され、「大村らしい特産品」の発掘を目指した審査会が行われた。 平成28年度は、グランプリ受賞商品等の販売促進活動を行う。
事業が抱える問題・課題等	種類別での審査としていないため、点数評価が困難となっている。表彰基準、審査基準を見直す必要がある。

妥当性	【必要性】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	市民の大村産品に対する愛着を喚起し、特産品を育てながら、市民を巻き込んで商工業・サービス業の振興を図ることは必要である。						
有効性	【市の関与】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	新商品等の開発や改良、販路拡大は基本的に事業者が行うものであるが、地域を代表する特産品を育て、地域振興に繋げていくために、市が関与し、支援する必要がある。						
効率性	【事業成果】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	市民や市内事業所に対し、「じげたま」の知名度を上げ、事業を継続することで物産振興を図り、経済活性化を図るうえで有効である。						
効率性	【施策貢献度】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	ふるさと大村産品を生み出し、育て、地域ブランド化を視野に地域の活性化を図ることは、大村市の物産振興に効果をもたらす。						
効率性	【コスト】	削減の余地なし		削減の余地あり		該当なし	
	市と商工会議所が1/2ずつ負担して運営し、出品者からは出品料を徴収しており、妥当なものと判断する。						
【負担割合】	見直しの余地なし		見直しの余地あり		該当なし		

※事業類型が1～3に該当する事業については妥当性及び有効性の評価は記入していません。

【ACTION(改善・改革)】

今後の方向性	現状維持	
--------	------	--

内容 今後の方向性のもとで、どのような取組をするか(課題や問題点等に対する取組など)	グランプリ事業は継続的に実施していき、グランプリで受賞となった商品を地域ブランド化として定着させるために販売戦略、PR方法を検討する。
効果 事業の改善・改革によって期待される効果は何か	開発された商品の売り上げが増し、地域経済の活性化につながる。

1次評価	今後の方向性	担当者意見のとおり		2次評価	対象外	今後の方向性
	終期設定				終期設定	
	意見等			内容		

※1次評価は事業担当課長等、2次評価は2次評価委員会によって行われます。